

会 議 録

会議名	平成22年度第1回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成22年8月10日(火) 13:30~15:00
開催場所	宇都宮市役所14階 14A会議室
出席者	【委員】植松明男, 木村由美子, 櫻井啓一, 遠藤和信, 南木清一, 大森玲子, 伴まさ子, 菊池武美, 橋本克子, 神宮由美子, 上野すみ子, 石島孝夫, 佐瀬敦, 高松智之, 熊本範夫, 仲田陽介, 宇賀神光夫, 田野島和子 【事務局】福田副市長, 津田環境部長ほか20名
公開・非公開	公開
傍聴者	なし(日刊建設新聞1名・日本工業経済新聞1名)
議題	1. 会長選出, 職務代理者指名 2. 宇都宮市一般廃棄物処理計画の諮問について 3. 宇都宮市一般廃棄物処理基本計画について
会議結果	1. 互選により南木委員を会長に選出。南木会長が神宮委員を職務代理者に指名。 2. 副市長による諮問 3. 審議会で出された意見等をふまえ, 今後の策定作業に活かしていく。

会議内容	
宇都宮市一般廃棄物処理基本計画について	
遠藤(和)委員	10月の市民意識調査について委員から意見を出す機会が無いが, どのような調査を行うか知っておきたい。
事務局	内容は現在取りまとめ中である。案が作成できれば委員の皆様, 審議会の外ではあるがお伝えし, 意見を伺いたい。
宇賀神委員	環境基本計画との整合性について, 審議会で検討する場はあるのか。
事務局	平成21, 22年度の2か年で新しい環境基本計画について策定中である。そのため, 並行作業で整合性をとる必要があり, 今後審議会の中で皆様に意見を伺いながら作成する。
遠藤(和)委員	第2次環境基本計画は, 平成20年4月に作成された現行計画を改定しているものか。
事務局	第1次環境基本計画が平成22年度までの計画であるため, 現在策定し直している。
遠藤(和)委員	新たな環境基本計画の内容について委員が知らなければ, 整合性の検証について審議会で議論できないのではないかと。
事務局	環境基本計画の中の廃棄物計画に関しては, 現在環境審議会を通じて検討を行っている。今後皆様にもご審議頂きながら作成する。

会議内容	
現行ごみ処理基本計画の評価と課題について	
木村委員	<p>検討施策の中で廃食油の資源化が挙げられているが、旧河内町では廃食油からせっけんを作る活動があり、環境保全と資源循環の役割を果たしている。このように、環境保全を行いながら資源循環に取り組むことについて、どのように考えているか。</p>
事務局	<p>現行では廃食油は主にBDFに変換して使っているが、せっけん作りについても資源循環、温室効果ガスの削減、意識啓発等の面で有効であると考え。現計画における取組では、せっけん作りの講習会、製造具貸し出しなどについて支援を実施している。</p>
木村委員	<p>せっけん作り活動にはさまざまな課題が存在するが、それらを解決して市民の中で取り組まれるような方策を、本計画の中でも検討頂きたい。</p>
遠藤（和）委員	<p>事業系ごみのステーション排出を禁止したことによる資源物以外のごみ減量及びプラスチック容器包装の分別による焼却ごみ減量について、根拠があいまいである。</p> <p>事業系ごみと家庭系ごみの合計が減ったことは理解できるが、事業系ごみのステーション排出を禁止することにより、資源物以外が減少したととれる表現である。</p> <p>プラスチック容器包装の新分別についても、13.3%の焼却ごみ減量分のうちプラスチック分別の寄与分は3～4%ではないか。焼却ごみ減量分をプラスチック容器包装の新分別によるものと考えすることは、過大であると思う。</p>
事務局	<p>家庭系、事業系を含む資源物以外のごみについては、平成18年度と平成19年度の比較による減少分が11,857トンである。元来ステーションに排出されていた分の事業系ごみ量に比べて、事業系ごみのステーション排出を禁止した際における事業系ごみの増加量が少ないため、排出の手間がかかることで事業系ごみの排出量が減少した可能性は考えられる。</p> <p>焼却ごみは、今年度4～6月分の実績で昨年度同時期よりも6,000トン減少しているため、13.3%の減少と記した。このとき、プラスチック容器包装の減少量は1,000トンであり、焼却ごみ減少の主要因であるとは断言できない。同時期に様々な分別施策を実施したため、複合的な効果が得られたものと考えている。</p> <p>誤解を招く表現であったことから、ごみの減量と施策の実施における具体的な因果関係が検証できていないため、次の審議会までに分析して、分かりやすく説明させて頂く。</p>
神宮委員	<p>プラスチック容器包装の新分類の効果について、分別が多くなり捨てることが面倒となるため、購入量が減少したということもあると思う。</p>
木村委員	<p>市民が意識して分別するようになった一方で、資源物の回収日が週に1回であるため、貯めておくことが大変だという意見が多い。資源物の回収日について計画の中で検討頂きたい。</p>

宇賀神委員	中長期的な家庭ごみ排出量について、施策の検討を行うときに、公平性を意識しながら市民が納得できる施策を行ってほしい。その中で、たとえば家庭可燃ごみの有料化施策などについても、検討して頂きたい。
事務局	ごみの有料化については、減量化、資源化施策を実施する中で、方法のひとつとして検討させて頂く。その際は、委員の皆様にもご審議頂きたい。
櫻井委員	分別が増えることで資源ごみが増加し、可燃ごみが減少している現状である。そのため、ごみ収集曜日に関しては収集業者等を含めて再度検討頂きたい。
事務局	ごみの収集方法に関しては様々な方法が考えられるが、経済的なこと、周知の問題を考えると容易に変更することは難しい。今後、慎重に検討していきたい。
田野島委員	可燃ごみは収集回数が少ないと家庭内の臭いが酷いので、週2回の収集は最低限実施して頂きたい。一方で、資源ごみの収集回数を週2回に増やすという方法も検討頂きたい。
遠藤（和）委員	現行計画の中の施策に対する評価基準があいまいであり、少し最良目ではないかと思う。また、収集費用に比べて処理費用が増加してきている理由はなにか。
事務局	評価については、確かにご指摘の通りの部分がある。処理費用の増加に関しては、クリーンパーク茂原が稼動を開始したことと、エコパーク板戸建設費を含んでいることが理由である。また、収集費用に関しては民間委託を推進したことで低減している。
遠藤（和）委員	収集費用に関しては、毎日収集をやめた時点でもう少し減っても良いのではないか。また、今後はプラスチック容器包装の分別に伴い、処理費用にリサイクル負担費用が上乗せされるのではないか。
事務局	エコプラセンター下荒針におけるプラスチック容器包装のリサイクル費用は1キロ当たり53円であり、それに対して地方が負担する金額は3%となる。月額では50万円程度の負担となる。
神宮委員	食品トレイの回収について、白色トレイしかリサイクルしていないが、有色トレイが多く使われているのが現状である。そこで、市として白色トレイを使用するように事業者へ指導して頂きたい。
事務局	白色トレイは白色トレイとして再資源化しており、有色トレイはプラスチック容器包装として回収し、リサイクルしている。
石島委員	白色トレイの方が安いですが、小売業者としては目立たせたい意向で有色トレイを多く使用している。我々は店舗で回収した有色トレイをRPFという形で燃料としてリサイクルしている。
遠藤（和）委員	ビンについては白色、茶色、その他に分別しているのか。
事務局	白色、茶色、その他に分別して回収し、白色、茶色については有価販売している。

会議内容	
現行生活排水処理の評価と課題について	
遠藤(和)委員	今後の汚泥処理の中で再資源化についてどのようなものを考えているか。
事務局	浄化槽汚泥や生ごみ等の再資源化として、肥料化、ガス化などを考えている。
遠藤(和)委員	下水道は豊富な資源であるという日経新聞の記事がある。リンの回収や、バイオガスの事例など、全国各地の事例が載っている。宇都宮市のもったいない運動の一環で、このような施策を実施してはどうか。このような事業を提案して頂かないと、なかなか審議できない。
事務局	今後、情報を収集して皆様に周知し、議論頂くようにする。
宇賀神委員	農業集落排水について、接続率の向上に関してどのような課題があるか。
事務局	新しく供用開始した地区では浄化槽からの変更にかかるため接続率が高くないが、ある程度の時間が経てば接続率が上昇すると考えられる。